

二十三 結婚式祭文

この神床に目標としてお鎮まり下さいます 親神天理王命の

御前に主礼 慎んで申し上げます

この度 の長男 は親神様の不思議なお働きにより
の次女 と縁談相整い 夫妻を媒酌人として

今日の吉き日御前に参出て婚姻の式を執り行わせて頂く事
に相成りましたのでこの由を申し上げ只今より教祖の御前でお
流れを戴き 契りの盃を取り交わさせて頂きます

このよのぢいとてんとをかたどりて ふうふをこしらえきたる
でな これハこのよのはじめだし

と朝な夕な唱和させて頂いて居りますが 夫は大地を包む
大空のように 妻は万物を生み育てる大地のようであれとお教
え下されております

二人は今日を人生の新たな門出として 常に親神様の御教を
羅針盤とし どんな中も明るく通られた教祖を身近に拝し 互い
に信じ合い扶け合い なるほどの人 なくてはならぬ人を目指
したすけ一条の道を力強く辿り 思召下さる陽氣遊山の世界
づくりの一翼を精一杯担って参りたいと心を定めておりますが
何卒親神様には松の緑の色濃く 吳竹の操正しく 梅の八千代
の春を重ねて 香わしく 玉の緒の命長く 久しく 変ることなく
成人の道をお連れ通り 下さいますよう 一同と共に慎んで
御願い申し上げます